



産業精神保健研究機構

Research Institute of Occupational Mental Health

一般社団法人産業精神保健研究機構研究会のご案内

発達障害へのサポートが必要かつ有意義であるにもかかわらず、社会制度の上で手薄となっている発達障害者の就労支援について、金沢大学准教授の熊崎博一先生（子どものこころの発達研究センター・附属病院子どものこころの診療科）をお招きし「児童精神科医から見た発達障害と就労支援の取り組み」をテーマとした研究会を、来る2019年2月4日（月）に新大阪で開催することとなりました。

熊崎先生は発達障害に関する最先端の研究を精力的に進めている方で、その現状やお取り組みについてもお話しが聴ける貴重な機会ですので、ご都合のつく方は奮ってご参加ください。

- 【テーマ】** 「児童精神科医から見た発達障害と就労支援の取り組み」
- 【日時】** 2019年2月4日（月） 14:00～16:00 (13:30 開場)
- 【演者】** 金沢大学子どものこころの診療科 准教授 熊崎 博一 先生
- 【プログラム】**
- 講演 1：金沢大学子どものこころの診療科 准教授 熊崎 博一
 講演 2：産業精神保健研究機構 RIOMH 代表理事 宮木 幸一
 質疑応答・ディスカッション
- 【場所】** ホテルメルパルク大阪 会議場（ル・マノワール）
 大阪府大阪市淀川区宮原 4-2-1（JR 新大阪駅徒歩 5 分）06-6350-2111
- 【参加費】** 無料
- 【主催】** 産業精神保健研究機構 RIOMH（リオム）

【熊崎 博一 准教授 ご略歴】

平成 16 年 3 月慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、国立成育医療研究センター子どものこころの診療部、大阪府立精神医療センター児童思春期科等を経て、平成 28 年 4 月より金沢大学子どものこころの発達研究センター特任准教授（金沢大学病院子どものこころ診療科副科長）。

平成 26 年「発達科学研究教育奨励賞」、平成 27 年度日本精神神経学会「国際学会発表賞」、小児医学振興財団海外留学フェローシップ、第 112 回日本精神神経学会総会「優秀発表賞」、日本生物学的精神医学会「若手奨励賞」、平成 29 年度日本精神神経学会「国際学会発表賞」、平成 30 年度日本児童青年精神医学会「研究奨励賞」など受賞歴多数。

専門は児童精神医学、自閉症の嗅覚特性、自閉症児へのテクノロジーを用いた支援。

【お知らせ】 会員の皆様に活用いただける調査票が増えました。ジェネラルな指標である WHO-HPQ をテーマ別に掘り下げるものとして、他の疾患特異的な国際指標を参考にした下記のような拡張設問です。

こうしたテーマ特異的・業種特異的な設問が加わると得られる知見も多くなり、プレゼンティーズム評価の事後措置として具体的な改善策が立てやすくなり（生産性に影響する要素は複数ありますが、例えば下記 Pain Specific のスコアが悪ければ慢性疼痛に対する介入が有効と判断できます）、またそうした改善策を実施した際の効果測定（例えば腰痛対策を行った前後でのより詳細な生産性比較）も容易になると思われます。追加の登録や費用なく無償利用できますので、活用希望の方は事務局までご連絡下さい。

また、代表理事の宮木が執筆した新刊「発達障害を職場でささえる 全員の本来発揮を目指すプレゼンティーズムという視点」が東京大学出版会から出版されました。<http://www.utp.or.jp/book/b375470.html>

発達障害者やその家族が活用できる各種公的制度や各種支援団体の情報に加え、ハーバード大学のハロウェル博士がメーリングリスト会員向けに公開している「成人の ADHD とうまく付き合うための 50 のヒント」を参考に、代表理事が日本人にも役立つ助言として編み出した「日本人成人の ADHD とうまく付き合うための 23 のヒント」が掲載されているほか、東京都自閉症協会の今井 忠 理事長から寄稿いただいた「当事者とのかわり方で主に心がけている 10 のこと」と「雇用にあたっての 10 の要点」なども掲載されており、当事者はもちろん、職場や家庭で当事者に関わる方にすぐに役立つ実践的情報が盛り込まれていますので、関係各位にはご一読をお勧めいたします。

WHO-HPQ 日本語版+PS (Pain Specific) 質問紙

以下の質問は、慢性疼痛（慢性的な痛み）があなたの仕事や日常の諸活動に及ぼす影響について伺うものです

1. 過去7日間、慢性疼痛（慢性的な痛み）により、何時間くらい仕事を休みましたか？

慢性の痛みが原因で休んだ休日は時間、曜日・早退した時間などは全て含めてください。
この調査に参加するために休んだ時間は含めません。

時間(00:00)

2. 過去7日間、仕事ををする際、慢性疼痛（慢性的な痛み）がどれくらい仕事の「生産性」（どのくらい本来の力を発揮できているか）に影響を及ぼしましたか？

仕事の量や種類が制限されたり、したいと思っていた仕事ができなかったり、普段通り注意散漫な仕事ができなかったりした日の事などを思い出してください。もし、仕事に対する慢性疼痛の影響が少しかつなかった場合は、小さい数字をお選びください。影響がひどかった場合は、大きい数字をお選びください。

仕事をしている間、慢性疼痛がどれくらい生産性に影響を及ぼしたかのみにお考えください。

慢性疼痛は仕事に影響を及ぼさなかった	慢性疼痛は完全に仕事の妨げになった
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

3. 過去7日間、慢性疼痛（慢性的な痛み）がどれくらい仕事以外の日常のいろいろな活動に影響を及ぼしましたか？

日常の諸活動とはあなたが普段こなしている家事、買い物、育児、運動、娯楽などの活動を指します。活動の量や種類が制限されたり、したいと思ったほど活動ができなかったりした日の事などを思い出してください。もし、日常の諸活動に対する慢性疼痛の影響が少しかつなかった場合は、小さい数字をお選びください。影響がひどかった場合は、大きい数字をお選びください。

慢性疼痛がどれくらい、仕事以外の日常の色々な活動に影響を及ぼしたかのみにお考えください。

慢性疼痛は日常の諸活動に影響を及ぼさなかった	慢性疼痛は日常の諸活動の完全に妨げになった
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



事務局より

個人会員・企業会員の皆様には、年度毎の会費納入をお願いしております。

調査票の利用にあたっては研究会や情報交換会の開催を通して最新の情報を会員にお伝えし、我が国での WHO-HPQ による生産性定量化の有効活用を促進し、会員間で優れた実践事例を共有することで現場での生産性向上につなげるべく、調査票利用年度の入会をお願いしている次第です。請求書が必要な際は事務局 riomh-staff@umin.ac.jp までお申し出くだされば発行いたしますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

©Research Institute of Occupational Mental Health